

戸田康之さん『手話ネーム』5月25日配信分

戸田（漢字）です。手話ネームではこのように表します。

今日は、どうして私がこの（てのひらの親指側を頭に当てる）手話ネームになったのかについてお話しします。

私は今、ろう学校の幼稚部で働いています。8～9年前のことになりますが、幼稚部の子どもたちと鬼ごっこをしていました。私が鬼になり、逃げ回る子どもたちを追いかけていたんです。

幼稚部の庭には鉄製の橋があります。低い橋で、子どもたちは背が低いので普通に橋の下を駆け抜けていくことができますが、私は身をかがめてくぐらなければなりません。ゆっくり通れば良かったのですが追いかけることに一生懸命で、通り抜けきらないうちに頭を上げたために頭をしたたかにぶつけてしまいました。強烈な痛みで、頭に手を当ててみると何やらべとべとした感触がありました。その手を見ると一面真っ赤。ぶつけた拍子に頭がぱっくり開いて血が噴き出していました。子どもたちは驚きのあまりきょとんとした状態、慌てて先生たちが駆け付けタオルで傷口を押さえてくれましたが血は止まりません。急いで救急車を呼び、病院に搬送されました。搬送後、麻酔をかけてから髪の毛を全部剃り、開いた傷口を35針も縫われました。そしてそのまま入院です。3日間絶対安静の入院生活を送りました。

その後退院許可がおりました。退院する時に医者からは、抜糸はまだできないので2週間後に改めて病院に来るよう言われました。そして、包帯はしないとのことでした。雑菌が繁殖しないよう、何も巻かずにそのままにしておくように。帽子もかぶってはいけない、空気に触れさせて治すのがいいと言われ、この頭をさらすのかと思いつつも納得しました。

退院し、翌日から出勤でした。私は電車通勤なので、電車に乗ると周囲の視線が私の頭に集まっているのが分かります。その視線に耐えながら電車に乗りました。

学校に着くと、子どもたちが私の頭の傷口を見るなり「あー！先生、橋で頭ぶつけたんだ！」と言うようになり、やがて頭を打つこの動作自体が私を指し示す手話ネームとして定着してしまったというわけです。今の在校生たちも、私をこの手話ネームで呼んでいます。

というわけで、戸田（手話ネーム）です。よろしくお願いします。